

第2学年のとりのくみ

実践記録

1. 生活科で大切にしたいこと・・・五感カードを生かして

「生活科で育った子どもたちは、3年生の理科の内容が過密になったというのに、観察することや物を作ることを一から教えていかなければならないので大変だ」といった言葉をよく聞く。そこで、本校の研究テーマである「感じる 考える 実感する 神代っ子」を育てるために低学年ではどんな力をつけるのか、という視点で生活科の内容を考えていかなければならないと思う。

子どもは自然が大好きである。花が咲いていれば摘み取って飾ったり、遊びに使ったりする。虫を見つければ捕まえて一緒に遊んだり、虫かごで飼ってみたりもする。遊びの中のコミュニケーションの仕方を学んでいく。自然の中で仲間と生活することが豊かな感性や学ぶ喜びを育てていくことにつながる。本校は幸いにも自然に大変恵まれているので、2年生ではこのような自然にかかわる活動やものづくりをたくさん体験させたいと考えた。それが、3年生以上の学習の土台になると思う。

最近、生活が便利になり、人間が本来持っている感覚とその統合に基づく能力がだんだん鈍ってしまっているのではないだろうか。だからこそ、低学年では、五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る）のよく働く子どもに育てることが大切であろう。そこで、1年間を通して五感カードを黒板に掲示し、ワークシートや発見カードを書いたり、発表会などの表現活動の際にも子どもたちに常に意識させ、いろいろな学習活動を組んでいきたい。

五感カード



ここがふれあい教室だよ。料理したりするところです。

2. 体験を重視した活動

(1) 「1年生といっしょに学校たんけんをしよう」

教室が2階となり、清掃活動もたくさん任せられ、身の回りの何もかもが、2年生に進級した子どもたちには新鮮でうれしいことである。その中でも自分より下の学年ができ、お姉さんお兄さんになったことは一番うれしいことのひとつである。そこで、「1年生に何をしてあげたいか」ということで話し合うと、「学校の中をいろいろ案内してあげたい」「休み時間に一緒に遊んであげたい」「勉強をいっしょにしたい」・・・などいろいろな意見が出てきた。そこで、1年生とグループを組み、各グループごとに、自己紹介をし、各教室を回りその教室の役割などを説明することになった。教室が重ならないように、階をずらして回る意見も出てきた。また、早く友達になれるように手をつないで回っているほほえましい光景も見られ、昼休みには、早速一緒に遊んでいた。活動に際しては、少し緊張気味の子どももいたが、活動後のワークシートに、「1年生の子をパソコン室にあん内した時、よろこんでくれたのがよかった」「くんが『これ何?』と聞いて、『パソコン』とこたえられたのがうれしかった」など教えてあげた喜びに満足している感想が多かった。



(2)「やさいづくりをしよう」

一人一鉢はミディートマト(ミニトマトと普通のトマトの間の大きさ)学級園には、どんな野菜を植えたいかを子どもたちから意見を聞き、ポップコーン、ミディートマト、ナス、キュウリ、サツマイモ、シシトウ、ピーマンを8つの班に分けて植え付け、水やり、草ぬき、収穫などの毎日の世話を続けている。給食の時に分け合ってトマトやキュウリを味わった。また、朝の会や終わりの会に、水やりの時に気づいたことを発表しあったり、生活科の時間に「発見カード」に書いたりするなかで成長のようすに目をむけるようにさせた。その際には、五感を働かせて観察するように常に言葉かけをした。

(3)「元気にそだて」

神代地区は自然に恵まれており、子どもたちは学校の行き帰りに、いろいろな季節の木々や虫を見つけることができる。農作業を手伝う子もいて、キャベツ畑でアオムシをたくさん見つけたり、みかんの木にアゲハの幼虫を見つかり学校に持って来る。そして、教室で育てみんなに飼い方や虫についての知識を広げてくれる。おかげで、いつの間にか男女関係なく虫好きが増えてきた。図書室で生き物の飼い方などの本に夢中になっている虫博士も多い。世話をする中で気づいたことは、朝の会や終わりの会でみんなに報告をしたり、画用紙に書いて掲示したりした。みんなでその成長を楽しみにしながら観察をしてきた。朝の会の時に教室の虫かごで育ったモンシロチョウやキアゲハを、ベランダから見送った時のみんなの目は輝いていた。その他に、オタマジャクシ、クワガタムシ、カブトムシ、サワガニ、ザリガニ、ミドリガメなども集まった。



いっぱい食べて
大きくなってね。

具体的な実践 「神代の町 大すき」

1. 体験

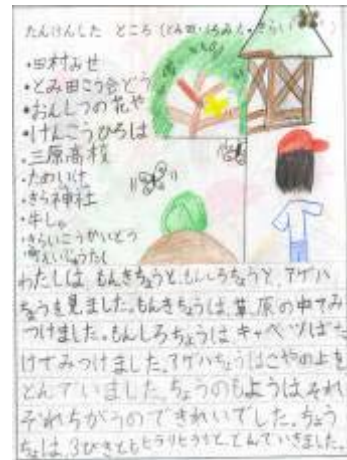
神代の町は東西にも南北にも広いので、自分や親しい友だちの地区しか歩いたことのない子も多い。そこで、グループ探検に取り組む前に「春みつけ」をかねて、神代の町を大きく3つ(黒道・富田・喜来)(籠池)(経所・南上・城家)に分け、紹介をかねて全員で歩いて探検することにした。回るにあたって、(自分たちの班はどこを探検をしたいか)しっかり五感を働かせて歩き、気づいたことを学校でワークシートや発見カードに書けるように課題を持たせた。また、お店や公の施設以外にも自然の様子、例えば田や畑の様子、生き物、虫や草花、木々、お家で飼っているものなどにも目をむけるように言葉かけをした。すると、籠池児童中央公園では、国語科で学習している「たんぽぽのちえ」に出てきたわた毛を見つけ、「わた毛がとびやすいようにくきをのばしてるよ」「ふいてみたらパツととんでいったよ」と嬉々としてわた毛と遊んだり、突如あぜ道に入り込み、「カミキリムシを見つけた」「テントウムシ見つけた」「キアゲハおった」・・・あっという間に列がちりぢりになったりもした。また、田や畑で働いている人が気軽に声をかけてくれたり、作物の説明を進んでしてくれたり神代ならではのほのぼのとした光景も見られた。

神代の町は、お店が国道沿いに集中しており、商店街というほどの数もなく、ほとんどがのどかな田園風景である。大型スーパー、市庁舎、郵便局は校区にはない。

そこで、子どもたちの意見を生かし、各班の探検場所として安全と時間も考慮し、「農協」「原口花店」「青木交番」「ハレルヤ製菓」「中尾みそこうじ店」「田村店」「村上食品」「プラセール」とした。農業地域で酪農も盛んである神代の特徴を生かし、その他に、放課後に、希望者を募って「久田牛舎」も探検場所とした。



パトカーがっいいいなあ！車の中はこうなってるんや・・・



たんけんカードより

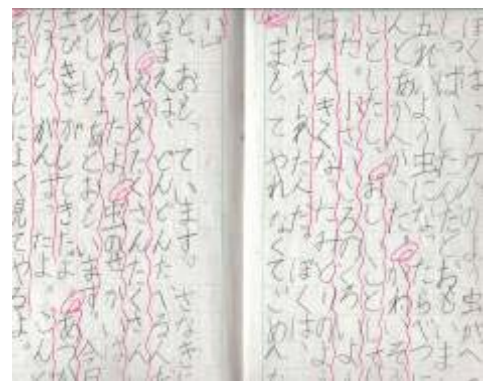
2. 気づき

それぞれの探検のために、前もって班ごとに話し合い知りたいことをワークシートに書き、手分けをしてたずねて来ることにした。そして、帰校後、ワークシートや発見カードやあのねノートに五感を生かして文や絵でまとめた。課題を持ってのぞんだことにより、それぞれの気づきや感動も多かったようだ。また、家での生活や行き来の道で気づいた田や畑の変化や見つけた花や虫などについても発見カードやあのねノートに書くことにした。

大はっけんカードより



あのねノートより



3. 表現

各班が探検したところをみんなのものに広げるために、「たんけんのはっぴょう会をしよう」の学習活動をした。班ごとに、(どうしたらみんなにたんけんしたところをわかりやすくつたえられるかをくふうしよう。)ということで、絵や説明を工夫し練習時間もとって発表会をした。また、前述したように気づきの表現方法として、ワーク写真シートや発見カードやあのねノートを使った。そして、発見カードは、教室の発見コーナーに掲示し紹介するようにした。あのねノートは、国語の作文の時間に読み聞かせをして、五感を生かした表現方法の指導に連動させた。また、大きな絵地図を作り、発表を終えるごとに各班の探検したところを絵カードにしてはっていった。虫・草花・木々・生き物・田や畑の様子について、発見をするたびに書きためておいた絵地図用の小さなカードもはらせた。

第2学年 生活科学習活動案

授業者 教諭 上原 三枝
教諭 仲野 智子
臨時教諭 山口 雅彦

1. 日時 平成17年7月8日(金) 4校時
2. 場所 2年1組教室
3. 単元 神代の町 大すき
4. 単元設定の理由

本学年の児童は、休み時間になると男女を問わずボール運動や遊具遊びに興じ、体を動かすことが大好きである。また、雑草園やわんぱくランドや藤棚などでもよく遊び、草花の冠や首飾りを作ったり、近くのみかんの木やキャベツ畑から見つけてきたたくさんのお虫をクラスで育て、羽化したチョウをペランダから見送るなど虫にも関心が高く、マイペースで心優しい児童が多い。

本単元では、学校生活も2年目となり、行動範囲も広がりつつある児童に、自分たちの住む神代の自然や人々・社会に目を向けさせ、町探検などの活動を通して、それらに積極的に関わらせることで得た新たな発見や気づきから、自分たちの町によりいっそう親しみをもち、愛する心も育ってくれたらと願っている。

活動に際しては、五感をしっかり働かせて、友達と協力しながら主体的に探検活動を行い、自分たちの生活は、地域の自然や多くの人々と関わりながら成り立っていることに気づかせたい。また、見たり、聞いたり、調べたり、感じたり、発見したことを自分らしい方法で表現し、グループの友だちと力を合わせて発表する喜びも体感できるように支援していきたい。

5. 単元の目標

自分たちの町に関心を持ち、友だちと協力しながら、町探検をしようとする。

自分たちが住んでいる町を探検し、見たり聞いたり調べたことや気づいたことなどを、自分らしい表現方法で表すことができる。

自分たちの町や地域の自然、人々や社会の様子、公共物などに関心を持ち、それらと自分とのかかわりや町のよさに気づくことができる。

6. 評価規準

関心・意欲・態度

- ・自分の町に関心を持ち、友だちと協力して、進んで町を探検したり、意欲的に調べたりしようとする。

思考・表現

- ・町探検で発見したことや気づいたことなどを、自分らしい方法で表現することができる。
- ・町探検でお世話になった人たちへ、感謝の気持ちを手紙や言葉などで伝えることができる。

気づき

- ・町の自然や人々、社会、公共施設などのようすについて気づくと同時に、自分の町のよさに気づいている。

7. 指導計画

- 第1次 みんなにしらせたいな・・・・・・・・・・2時間
- 第2次 神代の町をたんけんしよう！・・・・・・・・10時間
- 第3次 たんけんのはっぴょうかいをしよう・・・6時間（本時3 / 6）
- 第4次 おれいの手がみをとどけよう・・・・・・・・1時間

8. 本時の学習

(1) 目標

- ・町探検で調べたことや気づいたことを、グループの人と協力して、絵やカードを使って他のグループにわかりやすく発表することができる。
- ・他のグループの発表を聞き、自分たちの探検しなかった場所の様子ができる。
- ・グループの探検の他に、町の自然について気づいたことを発表し、絵地図にはる。

(2) 準備物

- 教師・・・五感カード 写真 絵地図
- 児童・・・発表の絵カード マップ用の絵カード 発表原稿

(3) 展開

学習活動	指導・支援 評価
<p>1. 本時の学習を知る。</p>	<p>めあてをはっきり持って、学習に取り組めるようにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">探検してきたことをみんなにわかるように発表しよう。</p>
<p>2. グループごとにみんなに伝えたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中尾みそこうじ店 ・青木交番 ・プラセール <p>発表を聞いて質問や感想を言う。 町探検した場所をカードで絵地図に表す。</p>	<p>準備物がそろっているか確かめる。</p> <p>思考・表現 発見したことや気づいたことなどを自分らしい方法で表現することができる。</p> <p>発表を通して成果の共有化をはかり、お互いに認め合えるようにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">神代の町探検でそのほかに虫や花や田や畑の様子について発見したことを発表しよう。</p>
<p>3. 虫や花や田や畑の様子で気づいたことを発表し、絵地図にカードをはる。</p>	<p>表現への意欲や思いを大切にし、たくさんの児童が発表できるようにする。</p>
<p>4. 絵地図を見て感想を出し合う。</p>	<p>児童のがんばりやよかったところを認める。 探検を通して神代の町の良さに気づくことができる。</p>

【授業を終えて】

授業以前に、体育館で発表した「田村店」「原口花店」「ハレルヤ製菓」の時は、発表班に対して「一番人気のおかしは何ですか」「何種類の花を育てていましたか」・・・といろいろな質問が出て、時間を切らなければいけないぐらいであった。また、発表班も原稿に頼らずのびのびと説明や質問に対する受け答えができていた。

当日は、ビデオカメラで撮られていたり、参観者もいて大変緊張していたようだ。しかし、各班ともに丁寧に描いた説明のカードを使い、大きな声ではりきって説明できていた。また、発見カードをはる場面においては、虫博士の活躍もあり、自分の家のお店ということで付け足しもあり、子どもたちはがんばっていた。たくさん書きためていた虫、草花、木々、生き物、田や畑の様子を発見カードを絵地図にはりたくてうずうずしていたのに、発表班を3つも組んでしまい時間がたりなくなってしまった授業展開を反省している。また、探検後、発表の準備をするのに班によって時間の差が大きく、早い班は間延びした感があり、練習の時に同じ教室でしたために、新鮮さに欠けたきらいがあったかも知れない。



成果と課題

この学習を通して、五感を常に意識して観察したり、書く活動ができる子が増えたように思う。また、まだまだ個人差はあるが、時間を意識して絵や文に書く事にも慣れてきており、国語の作文にも成果が見られた。

あのねノートの題材を見ると、学校の行き帰りや家での生活の中で、自然に目を向ける子が増えたように感じる。

班で活動することで、話し合いが必要となり、わがままばかり言っておれないことに気づき始めた子もいる。しかし、まだまだ消極的で人まかせな子もあり、リーダーのいない班は教師に頼りがちである。どの子もリーダーになれるように、いろいろな教科の学習活動を通して育てていきたい。

発表会などの表現活動において、はずかしがらずに、原稿に頼らず発表できるように朝のスピーチや係りの活動報告会などいろいろな活動の機会を増やしていきたい。

また、生活科で大切にしたいこととして最初に述べたように、2学期の「秋の虫をさがそう」の単元では、さらに自然に目を向けられるように、また、「おもちゃランド」の単元では、班ごとにいろいろな力で動くおもちゃを考え、設計図を書く作業を通してどんな材料や道具が必要かを考えさせ、道具を使ったり、物を作ったりする知恵がつくようにしていきたい。そして、班活動を多くし、友だちとのコミュニケーションの仕方を学んでいく機会を増やしていきたい。自然の中で仲間と生活することが豊かな感性や学ぶ喜びを育てていくことにつながることを願って・・・